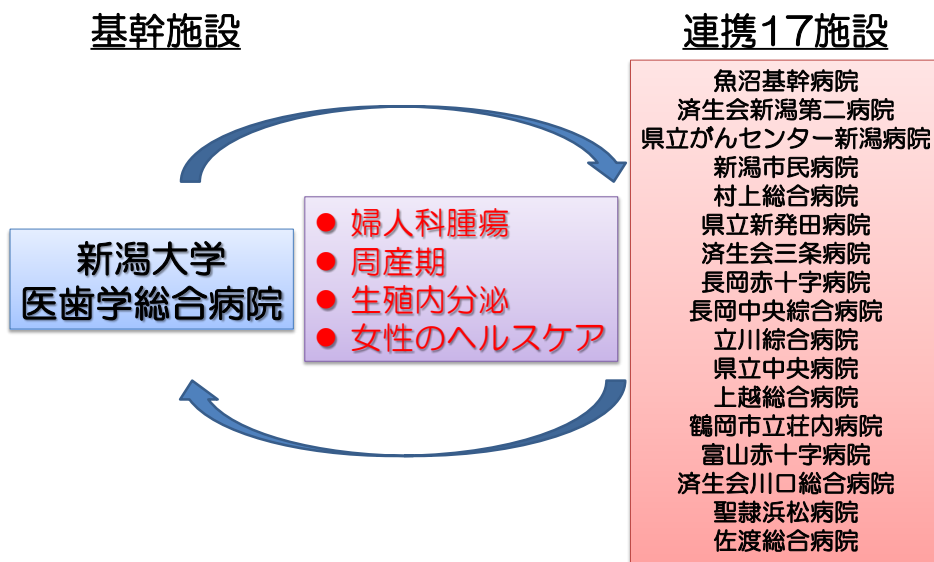


新潟大学産婦人科研修プログラム

A.新潟大学産婦人科研修プログラムの概要

新潟大学専門研修施設群

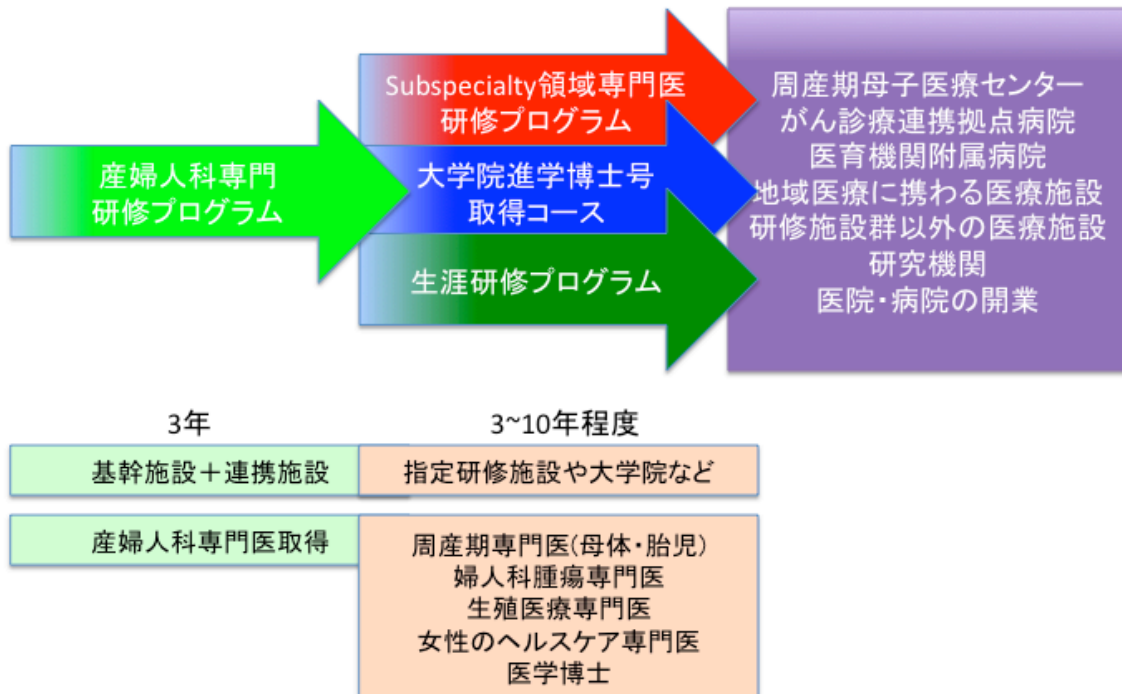


新潟大学産婦人科研修プログラムでは新潟大学医歯学総合病院産婦人科を基幹施設とし、連携施設とともに研修施設群を形成して専攻医の指導にあたる。これは地域医療を経験しその特性の習熟を目的とし、高度かつ安定した地域医療の提供に何が必要かを勘案する能力がある専門医の育成に寄与するものである。また、大学病院では経験する事が少ない性病、性器脱、避妊指導、モーニングアフターピルの処方と服薬指導などの習熟にも必要である。指導医の一部も施設を移り施設群全体での医療レベルの向上と均一化を図ることで専攻医に対する高度に均一化された専攻医研修システムの提供を可能とする。連携施設には得意とする産婦人科診療内容があり、基幹施設を中心として連携施設をローテートする事で生殖医療、婦人科腫瘍（類腫瘍を含む）、周産期、女性のヘルスケアの4領域を万遍なく研修する事が可能となる。

産婦人科専攻医の研修の順序、期間等については、個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各施設の状況、地域の医療体制を勘案して、新潟大学産婦人科専門研修プログラム管理委員会が決定する。

B. 新潟大学産婦人科研修プログラムの具体例

専門医制度研修プログラムとその後のSubspecialty研修などと将来像の概要



産婦人科研修プログラムは、新潟大学医歯学総合病院の4年間の後期研修プログラムにおける専門コースの一部ではじめの3年間は本プログラムに相当する。専攻医は3年間で修了要件を満たし、ほとんどは専門医たる技能を修得したと認定されると見込まれる。修了要件を満たしても技能の修得が足りない場合、病気や出産・育児、留学などのため3年間で研修を修了できなかった場合は1年単位で研修期間を延長し、最終的に専門医を名乗るに足る産婦人科医として、修了年の翌年度（通常後期研修の4年目）に産婦人科専門医試験を受検する。専門医を取得して産婦人科研修プログラムの修了と認定する。この4年目は産婦人科専門医取得とその後のサブスペシャリティ研修開始の重要な時期である。

研修は基幹施設である新潟大学医歯学総合病院産婦人科ならびに富山県、山形県、静岡県もしくは埼玉県内の連携施設にて行い2か月～1年ごとのローテーションを基本とする。大学においては、婦人科悪性腫瘍および合併症妊娠や胎児異常、産科救急などを中心に研修する。大学での研修の長所は、一般市中病院では経験しにくいこれらの疾患を多数経験ができることである。3年間の研修期間のうち原則的に少なくとも1年間は基幹施設で最重症度の患者への最新の標準治療を体験する。

一方、大学外の関連病院においては、不妊治療および一般婦人科疾患、正常妊娠・分娩・産褥や正常新生児の管理を中心に研修する。外来診療および入院診療は治療方針の立案、実際の治療、退院まで、指導医の助言を得ながら自ら主体的に行う研修となる。生殖医療については体外受精などの不妊治療を新潟大学医歯学総合病院もしくは済生会第二病院、立川総合病院、上越総合病院、富山赤十字病院、聖隷浜松病院で研修可能である。

C. Subspecialty 専門医の取得に向けたプログラムの構築

新潟大学産婦人科研修プログラムは専門医取得後に以下の専門医・認定医取得へつながるようなものとする。

- ・日本周産期・新生児医学会 母体・胎児専門医
- ・日本婦人科腫瘍学会 婦人科腫瘍専門医
- ・日本生殖医学会 生殖医療専門医
- ・日本女性医学学会 女性ヘルスケア専門医
- ・日本産科婦人科内視鏡学会 技術認定医

専門医取得後には、「Subspecialty 産婦人科医養成プログラム」として、産婦人科 4 領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動も提示する。

D. 初期研修プログラム

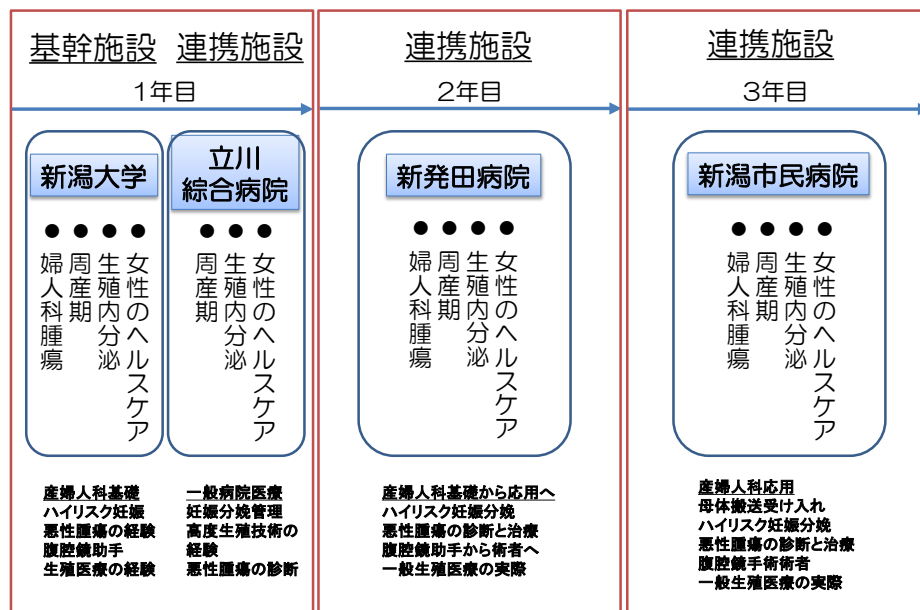
新潟大学産婦人科専門研修プログラム管理委員会は、総合臨床教育センターと協力し、大学卒業後 2 年以内の初期研修医の希望に応じて、将来産婦人科を目指すための初期研修プログラム作成にもかかわる。

新潟大学医歯学総合病院専門研修プログラム例

1) 基幹施設→連携施設→連携施設→連携施設研修コース

産科人科専門医療人育成研修プログラムの概要(例 1)

研修プログラムの実際



予定経験症例数

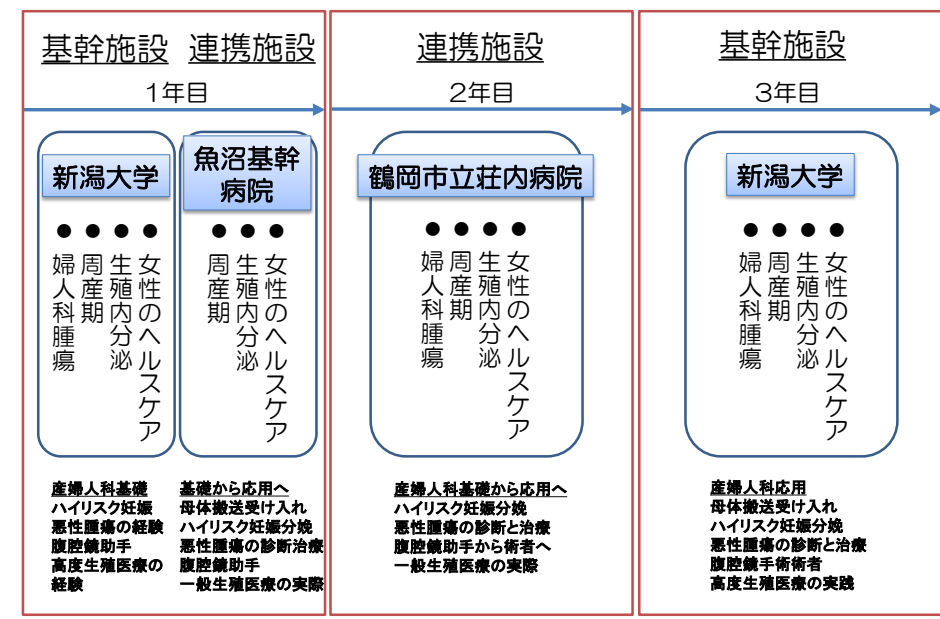
研修修了要件	新潟大学	立川総合病院	新発田病院	新潟市民病院	経験予定数
経陰分娩	50	100	100	150	400
帝王切開執刀	20	20	40	50	130
帝王切開助手	10	10	20	10	50
前置胎盤・常位胎盤早期剥離の帝王切開術	5	2	3	10	20
子宮内容除去術・子宮内腫全面掻爬術執刀	5	30	5	10	50
腔式手術（子宮頸部円錐切除術、子宮頸管鏡術を含む）執刀	10	20	20	20	70
子宮付属器摘出術・卵巣嚢腫摘出術執刀	10	10	20	40	80
単純子宮全摘出術執刀	5	10	20	30	65
浸潤癌手術	20	1	20	20	61
腹腔鏡下手術	20	3	60	60	143
不妊症例の経験	20	300	20	10	350
採卵・胚移植症例の経験	10	50	0	0	60
思春期・更年期症例の経験	20	30	50	40	140
OC/LEP 処方の経験	5	10	10	20	45

新潟大学医歯学総合病院専門研修プログラム例

2) 基幹施設→連携施設→連携施設→基幹施設研修コース

産科婦人科専門医療人育成研修プログラムの概要(例2)

研修プログラムの実際



予定経験症例数

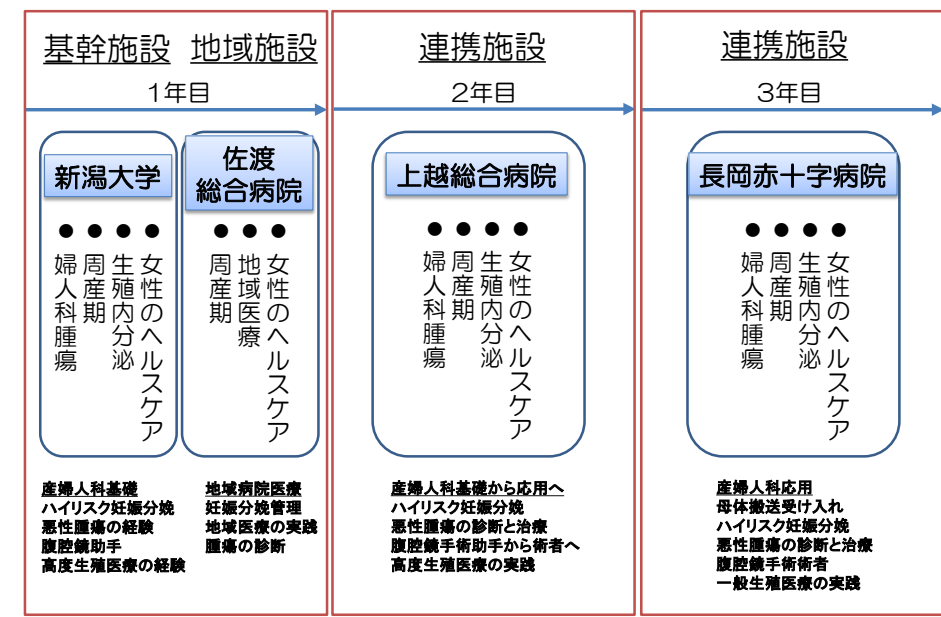
研修修了要件	新潟大学	魚沼基幹病院	荘内病院	新潟大学	経験予定数
経膈分娩	50	100	100	100	350
帝王切開執刀	20	20	30	40	110
帝王切開助手	10	10	10	20	50
前置胎盤・常位胎盤早期剥離の帝王切開術	5	2	3	10	20
子宮内容除去術・子宮内腫瘍全摘術執刀	5	10	10	10	35
腔式手術（子宮頸部円錐切除術、子宮頸管鏡術を含む）執刀	10	10	20	20	60
子宮付属器摘出術・卵巣嚢腫摘出術執刀	10	10	20	20	60
単純子宮全摘術執刀	5	5	20	10	40
浸潤癌手術	20	10	15	40	85
腹腔鏡下手術	20	20	30	40	110
不妊症例の経験	20	5	20	40	85
採卵・胚移植症例の経験	10	0	0	20	30
思春期・更年期症例の経験	20	10	50	40	120
OC/LEP 処方の経験	5	2	15	10	32

新潟大学医歯学総合病院専門研修プログラム例

3) 基幹施設→地域施設→連携施設→連携施設研修コース

産科婦人科専門医療人育成研修プログラムの概要(例3)

研修プログラムの実際



予定経験症例数

研修修了要件	新潟大学	佐渡総合病院	上越総合病院	長岡赤十字病院	経験予定数
経膈分娩	50	100	200	150	500
帝王切開執刀	20	20	40	50	130
帝王切開助手	10	10	20	10	50
前置胎盤・常位胎盤早期剥離の帝王切開術	5	1	1	10	17
子宮内容除去術・子宮内腫全面掻爬術執刀	5	20	20	10	55
膣式手術（子宮頸部円錐切除術、子宮頸管縮小術を含む）執刀	10	5	10	20	45
子宮付属器摘出術・卵巣腫瘍摘出術執刀	10	5	10	30	55
単純子宮全摘出術執刀	5	5	10	20	40
浸潤癌手術	20	0	5	30	55
腹腔鏡下手術	20	1	10	60	91
不妊症例の経験	20	10	200	20	250
授卵・胚移植症例の経験	10	0	20	0	30
思春期・更年期症例の経験	20	10	80	20	130
OC/LEP 処方の経験	5	10	50	5	70

4) 新潟大学医歯学総合病院産婦人科初期研修プログラム

1. 新潟大学医歯学総合病院のすべての研修医は新潟大学産婦人科が主催する学会、研究会、産婦人科卒後研修セミナー等に参加でき、各種学会発表や論文作成などができる。

2. 産科特別プログラム：産婦人科医師を目指す初期研修医のためのプログラム。初期臨床研修期間中、最長6ヶ月間を産婦人科研修に充てることが可能。産婦人科では新潟大学医歯学総合病院内において周産期、婦人科腫瘍の疾患の管理（手術の執刀を含む）を限無く経験し、スムーズに3年目以降の産婦人科専攻医の研修に移行する。新潟大学医歯学総合病院の初期臨床研修プログラムは集中管理方式の病院群を構成しているため、新潟大学医歯学総合病院をはじめとする複数の総合病院において麻酔科、内科（代謝内分泌内科、腎臓内科）、外科（消化器外科、腎泌尿器外科）、小児科（新生児科NICU勤務）等、産婦人科と関連の深い科を選択して研修することが可能である。

必修内科

必修救急

選択必修

選択

1年目

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
産婦人科（大学）			必修内科		必修内科		放射線 診断	診断 病理	麻酔科（大学）		

2年目

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
NICU（大学）		外科（院外）		精神科（大学）		産婦人科（大学）			地域 医療	（大学）	

3. 産婦人科ベーシックプログラム：全ての初期研修医のためのプログラム。初期臨床研修期間中、最長3ヶ月間の産婦人科研修が可能。産科と婦人科の各単独研修も選択できる。全ての医師が身につけるべき産婦人科のプライマリケア技能の研修が可能。

新潟大学産婦人科専門研修施設群

新潟大学産婦人科研修施設群研修施設

各研修病院における手術件数と分娩数（平成 26 年 1 月～12 月）

		病院	総手術 件数	婦人科 手術	子宮内容 除去術	腹腔鏡下 手術	分娩数	帝王切開	
基幹施設		新潟大学医歯学総合病院	1130	290	30	60	450	180	
	連携施設		魚沼基幹病院	1290	180	60	70	720	150
			済生会新潟第二病院	1990	500	50	200	900	240
			県立がんセンター新潟病院	430	420	10	40	0	0
			新潟市民病院	1585	400	15	120	620	270
			村上総合病院	468	100	35	3	252	31
			県立新発田病院	900	350	10	80	300	120
		済生会三条病院	619	168	44	89	307	50	
		長岡赤十字病院	1540	350	20	100	700	220	
		長岡中央総合病院	1930	450	60	45	1100	160	
		立川総合病院	1180	200	150	8	600	80	
		県立中央病院	1230	310	60	0	450	170	
		上越総合病院	1105	152	45	13	573	129	
		鶴岡市立荘内病院	585	156	15	34	222	83	
		富山赤十字病院	590	130	35	20	310	40	
		済生会川口総合病院	865	100	40	7	480	120	
		聖隷浜松病院	237	59	13	23	94	33	
		佐渡総合病院	700	55	57	2	399	67	

各教育研修病院における研修体制

病院	生殖内分泌	婦人科腫瘍	周産期	女性のヘルスケア
新潟大学医歯学総合病院	◎	◎	◎	◎
済生会新潟第二病院	◎	○	◎	◎
県立がんセンター新潟病院	△	◎	×	◎

新潟市民病院	○	○	◎	◎
村上総合病院	△	○	○	◎
県立新発田病院	△	○	◎	◎
済生会三条病院	△	○	○	◎
長岡赤十字病院	○	◎	◎	◎
長岡中央総合病院	○	◎	◎	◎
立川総合病院	◎	○	○	◎
県立中央病院	△	◎	◎	◎
上越総合病院	◎	○	○	◎
鶴岡市立荘内病院	○	◎	◎	◎
富山赤十字病院	◎	◎	◎	◎
済生会川口総合病院	○	○	◎	◎
聖隷浜松病院	◎	◎	◎	◎
魚沼基幹病院	○	◎	◎	◎
佐渡総合病院	△	○	○	◎

各研修病院での専攻医指導に関する研修可能性を4段階(◎、○、△、×)に評価した。

1) 基幹施設

新潟大学医歯学総合病院

指導責任者	榎本隆之 【メッセージ】 新潟大学産婦人科のセールスポイントは、1) 周産期医療と婦人科がん診療においては国立大学では全国 1, 2 位を争う症例の豊富さ、2) 手術など技術の指導に熱心な指導体制、3) エビデンスを作るための臨床試験や治験への参加が多く、自然に EBM を身につけられる環境、である。後期研修 4 年目の秋に産婦人科専門医を取得することができ、さらに希望があればサブスペシャリティの周産期(母体・胎児)専門医、婦人科腫瘍専門医取得のための研修に移行できる。また、大学院進学も積極的に支援している。
指導医数	日本産科婦人科学会産婦人科指導医 5 名・専門医 24 名、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍暫定指導医 1 名・専門医 3 名、日本生殖医学会生殖医療専門医 1 名、日本周産期・新生児医学会 周産期(母体・胎児)指導医 1 名、専門医 3 名、日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医 1 名、臨床遺伝専門医制度指導医 1 名、専門医 3 名
外来患者数	外来患者 2400 名(1ヶ月平均) 婦人科:1900 名、産科:500 名
新入院患者数	100 名(1ヶ月平均) 婦人科:50 名、産科:50 名
手術件数	約 40 件/月 婦人科 25 件、産科 15 件
分娩件数	約 40 件/月
経験できる疾患	選抜された少数の後期研修医が担当しますので、ほとんどすべての産婦人科疾患

患	患を経験することができます。
経験できる手技	<p>1) 婦人科内分泌検査・・・基礎体温測定、腔細胞診、頸管粘液検査、ホルモン負荷テスト、各種ホルモン測定、子宮内膜検査</p> <p>2) 不妊（症）検査・・・基礎体温測定、卵管疎通性検査（通気、通水、通色素、子宮卵管造影）、精子頸管粘液適合試験（Huhner テスト）、精液検査、子宮鏡、腹腔鏡、子宮内膜検査、月経血培養</p> <p>3) 癌の検査・・・子宮腔部・頸部・内膜をはじめとする細胞診、コルポスコピー、Schiller テスト、組織診、子宮鏡、RI 検査、CT、MRI、腫瘍マーカー測定</p> <p>4) 絨毛性疾患検査・・・基礎体温測定、ホルモン測定（絨毛性ゴナドトロピンその他）、胸部 X 線検査、超音波診断、骨盤動脈造影</p> <p>5) 感染症の検査・・・一般細菌、原虫、真菌検査、免疫学的検査（梅毒血清学的検査、HBs 抗原検査、HCV 抗体検査、HTLV-I 検査、HIV 検査、風疹抗体、トキソプラズマ抗体、淋菌 DNA、クラミジア DNA・抗体検査など）、血液像、生化学的検査</p> <p>6) 放射線学的検査・・・骨盤計測（入口面撮影、側面撮影）、子宮卵管造影、腎盂撮影、膀胱造影、骨盤血管造影、リンパ管造影、胎児造影、レノグラフィ、シンチグラフィ、骨・トルコ鞍・胸部・腹部単純撮影法、CT、MRI、RI 検査</p> <p>7) 内視鏡検査・・・コルポスコピー、子宮鏡、腹腔鏡、羊水鏡、膀胱鏡、直腸鏡</p> <p>8) 妊娠の診断・・・免疫学的妊娠反応、超音波検査（ドップラー法、断層法）</p> <p>9) 生化学的・免疫学的検査</p> <p>10) 超音波検査・・・ドップラー法：胎児心拍聴取、断層法：骨盤腔内腫瘍（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍その他）、胎嚢、胎児頭殿長、児頭大横径、胎状奇胎、胎盤付着部位、多胎妊娠、胎児発育、胎児形態異常の診断、子宮頸管長、Biophysical Profile Score (BPS)、Amniotic Fluid Index (AFI)、血流ドップラー法</p> <p>11) 出生前診断・・・羊水診断、絨毛診断、胎児血検査、胎児 well-being 診断、胎児形態異常診断、遺伝カウンセリング</p> <p>12) 分娩監視法・・・陣痛計測、胎児心拍数計測、血液ガス分析</p>
経験できる手術（術者）	<p>婦人科：腹式単純子宮全摘出術、膣式単純子宮全摘出術、子宮筋腫核出術、子宮腔部円錐切除術、子宮頸管形成術、頸管ポリープ切除術、子宮形成術、子宮脱手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍核出術（切除術）、卵管避妊手術、Bartholin 腺手術（造袋術、摘出術）、陈旧性会陰裂傷形成術、腹腔鏡下腹腔内観察、胸水穿刺術、腹水穿刺術、皮膚腫瘍生検術、体外受精における採卵</p> <p>産科：会陰切開・縫合術、吸引遂娩術、鉗子遂娩術、骨盤位牽出術、腹式帝王切開術、子宮内容除去術、子宮頸管縫縮術・抜環術、妊娠合併卵巣腫瘍核出術（切除術）、産褥会陰血腫除去術、羊水穿刺術</p>
経験できる手術（助手）	<p>婦人科：広汎子宮全摘出術、準広汎子宮全摘出術、後腹膜リンパ節郭清、卵巣癌根治手術、子宮鏡下手術、腹腔鏡下手術、マイクロサージェリー、外陰切除術、人工造腔術、膀胱・尿管に関する手術、消化管・肛門に関する手術、体外受精における胚移植</p> <p>産科：胎児胸腔穿刺術、胎児腹腔穿刺術、胎児採血、胎児膀胱-羊水腔シャント術、胎児胸腔-羊水腔シャント術</p>
学会認定施設	<p>日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設</p> <p>日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設</p> <p>日本周産期・新生児医学会母体・胎児専門医研修基幹施設</p> <p>日本生殖医学会専門医制度認定研修施設</p> <p>臨床遺伝専門医制度認定研修施設</p>

2) 連携施設

新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院

指導責任者	加嶋 克則 【初期研修医へのメッセージ】 当院は新潟県魚沼地域の医療の中心的役割を果たしている病院です。周産期領域では地域周産期母子医療センターに指定されており、合併症妊娠、多胎妊娠などを管理することが可能で、高度な周産期医療を行っております。婦人科腫瘍領域では婦人科悪性腫瘍に対する手術、化学療法、放射線治療を行い、婦人科良性疾患に対しては、幅広く腹腔鏡下手術を行っております。産科および婦人科領域の様々な症例を経験し、充実した研修を行うことが可能です。自然に囲まれた当院で、多くの指導医と一緒に、楽しく産婦人科の研修を行いましょ。
指導医数	7名（日本産科婦人科学会専門医7名、日本生殖医学会生殖医療専門医1名）
外来・入院患者数	外来患者 1200名（1ヶ月平均） 入院患者 100名（1ヶ月平均）
手術件数	約 30件/月（産科15件、婦人科15件）
分娩件数	約 60件/月
経験できる疾患	周産期、婦人科腫瘍、生殖医療、女性医学の各領域におけるほとんどすべての産婦人科疾患を経験することができます。ただし、生殖補助医療は行っていません。
経験できる手技	産科 ：妊娠の診断・・・免疫学的妊娠反応、超音波検査 妊婦健診・・・ドップラー法：胎児心拍聴取、超音波検査：胎嚢、胎児頭殿長、児頭大横径、胎状奇胎、胎盤付着部位、多胎妊娠、胎児発育、胎児形態異常の診断、子宮頸管長、Biophysical Profile Score (BPS)、Amniotic Fluid Index (AFI)、血流ドップラー法 出生前診断・・・羊水検査、胎児血検査、胎児 well-being 診断、胎児形態異常診断、遺伝カウンセリング 分娩監視法・・・陣痛計測、胎児心拍数計測、血液ガス分析 分娩処置・・・正常分娩、吸引分娩、鉗子分娩、骨盤位分娩、帝王切開分娩、会陰切開縫合、新生児の診察、産褥管理 婦人科 ：一般外来診療・・・内診、超音波検査（卵巣腫瘍、子宮筋腫、子宮内膜症など）、子宮腔部・頸部・内膜をはじめとする細胞診、コルポスコピー、Schillerテスト、組織診、直腸診、腫瘍マーカー測定、ホルモン検査、腔分泌物培養、クラミジアDNA・抗体検査、子宮鏡、胸部・腹部単純撮影法、CT、MRI 入院治療・・・手術患者の手術および周術期管理、感染性疾患や悪性腫瘍患者の全身管理、穿刺診 生殖医療 ：不妊検査・・・基礎体温測定、基礎ホルモン検査、子宮卵管造影、頸管粘液検査、性交後試験、超音波検査による卵胞発育および子宮内膜モニタリング、精液検査、腹腔鏡、子宮鏡
経験できる手術	産科 ：会陰切開縫合術、帝王切開術、吸引分娩術、鉗子分娩術、骨盤位牽出術、流産手術、人工妊娠中絶術、卵管避妊手術、外陰・腔血腫除去術 婦人科 ：腹式単純子宮全摘出術、腔式単純子宮全摘出術、準広汎（拡大単純）子宮全摘出術、広汎子宮全摘出術、後腹膜リンパ節郭清、傍大動脈リンパ節郭清、子宮筋腫核出術、子宮腺筋症核出術、子宮腔部円錐切除術、頸管ポリープ切除術、子宮脱手術（メッシュ法含む）、付属器摘出術、卵巣腫瘍核出術（切除術）、卵巣癌根治手術、Bartholin 腺手術（造袋術、摘出術）、子宮鏡下手術、腹腔鏡下手術、人工造腔術、腹水穿刺術、胸水穿刺術、皮膚腫瘍生検術 生殖医療 ：腹腔鏡検査、子宮奇形形成術
学会認定施設	

済生会新潟第二病院

指導責任者	吉谷徳夫 【初期研修医へのメッセージ】 一般市中病院として産科、婦人科の豊富な症例を経験できます。特に手術症例では鏡視下手術（腹腔鏡および子宮鏡下手術）も積極的に導入しており、県内屈指の症例数を誇っています。また、体外受精・顕微授精から精巣精子採取術まであらゆる不妊治療を行っており、上級医とともにそれらの診療にも参加できます。
指導医数	5名（日本産科婦人科学会専門医5名、日本産科婦人科学会専門医制度指導医1名、同暫定指導医1名） 【その他の専門医・指導医資格等】 母体保護法指定医師2名、日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医1名、日本がん治療認定医機構がん治療認定医2名、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医（腹腔鏡および子宮鏡）1名、日本生殖医学会生殖医療専門医1名、日本周産期・新生児医学会母体・胎児暫定指導医1名、同母体・胎児専門医1名、新生児蘇生法インストラクター1名、臨床遺伝専門医1名）
外来・入院患者数	外来患者 170/日、入院患者 150（産科 100、婦人科 50）名（1ヶ月平均）
手術件数	約 60件/月（産科 30件、婦人科 30件）
分娩件数	約 80件/月
経験できる疾患	一部の診療（NICU、放射線治療設備を必要とする診療および進行期子宮頸がん手術）を除いて産科、婦人科、生殖医療の各部門におけるほとんどの疾患
経験できる手技	産科 ：妊娠診断、妊婦健診、切迫流産等妊娠経過異常に対する管理、分娩管理、分娩処置（正常・吸引・鉗子・骨盤位・帝王切開分娩、会陰切開縫合等）、新生児の診察、産褥管理 婦人科 ：一般外来診療・・・視診、腔鏡診、内診・双合診、直腸診、子宮消息子診（ゾンデ診）、コルポ診、検体検査・内視鏡検査・画像診断等による各種疾患の診断、投薬・小手術等による治療/入院治療・・・手術患者の手術及び周術期管理、感染性疾患や悪性腫瘍患者の全身管理 生殖医療 ：不妊外来・・・基礎体温表の診断・各種ホルモン検査・精液検査・卵管検査等による診断、治療方針の立案と排卵誘発や人工授精・体外受精・顕微授精等（採卵、精液処理、胚培養、胚移植、胚凍結保存・融解等）の治療への参加
経験できる手術	産科 ：帝王切開術、子宮頸管縫縮術、流産手術・人工妊娠中絶術、卵管避妊手術など 婦人科 ：単純子宮全摘出術（腹式/腔式）、子宮筋腫核出術、子宮頸部円錐切除術/蒸散、バルトリン腺手術（造袋術）、子宮脱手術、卵巣腫瘍手術（付属器摘出/腫瘍摘出術など）、子宮体癌根治手術、卵巣癌根治手術、準広汎子宮全摘出術、後腹膜リンパ節郭清、腹水穿刺など 鏡視下手術 ：腹腔鏡（卵巣腫瘍、子宮筋腫、異所性妊娠など）、子宮鏡（粘膜下筋腫、子宮内膜ポリープなど）、生殖医療関連の検査、処置（多嚢胞性卵巣、卵管開窓術など）
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設 母体保護法指定医師研修指定施設 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設 日本生殖医学会認定研修施設 日本周産期・新生児医学会周産期専門医制度暫定認定施設

新潟県立がんセンター新潟病院

指導責任者	本間 滋（2016年3月まで）、笹川 基（2016年4月以降） 【初期研修医へのメッセージ】当院は平成19年1月に都道府県がん診療連携拠点病院に指定され、最先端のがん診療をめざし行っています。また県内2施設ある日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設に認定され、婦人科悪性腫瘍に対する長年の治療内容が集積され、研究対象としても貴重です。CINに対する機能温存手術である円錐切除術から進行癌に対する根治的手術まで種々の手術を経験できます。また、腹腔鏡にも積極的に取り組んでいます。抗がん化学療法症例も多く、JCOG/JGOGの参加施設でもあり、先端的な治療を行っています。さらに放射線治療科とともに画像誘導高線量率組織内照射などきわめて高度な放射線治療もおこなっています。1ヶ月に1回キャンサーボードが開催され、各科横断的な活発なディスカッションが行われています。婦人科としては毎週1回症例検討会を行い、また月2回放射線専門医とともに画像検討会を行っています。全国学会（日本産科婦人科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本癌治療学会、日本臨床細胞学会など）、地方学会・研究会にも積極的に演題発表を行っています（2015年発表は、全国学会：10演題、地方学会・研究会：11演題）。
指導医数	（2016年4月以降）3名（日本産科婦人科学会専門医3名、日本婦人科腫瘍学会認定腫瘍専門医2名、日本がん治療専門医機構認定がん治療認定医2名、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医2名、日本人類遺伝学会/日本遺伝カウンセリング学会臨床遺伝専門医1名、周産期新生児学会母体胎児専門医1名）
外来・入院患者数	外来患者 約1500例（1ヶ月平均）、 入院患者 130例（1ヶ月平均）
手術件数	約40件/月
分娩件数	取り扱っていません。
経験できる疾患	初期から進行した症例までの悪性腫瘍。良性の婦人科疾患（子宮筋腫・腺筋症、子宮内膜症、良性卵巣腫瘍）も、取り扱っています。
経験できる手技	婦人科：一般外来診療・・・内診・直腸診・穿刺診・検体検査・内視鏡検査・画像診断等による各種疾患の診断、投薬・小手術等による治療／入院治療・・・手術患者の手術及び周術期管理、感染性疾患や良性・悪性腫瘍患者の全身管理
経験できる手術	婦人科：腹式単純子宮全摘出術、腔式単純子宮全摘出術、準広汎（拡大単純）子宮全摘出術、広汎子宮全摘出術、後腹膜（骨盤・傍大動脈）リンパ節郭清、子宮筋腫核出術、子宮頸部円錐切除術、付属器摘出術、卵巣腫瘍摘出術、卵巣癌根治手術、外陰良性・悪性腫瘍手術、子宮鏡下手術、腹腔鏡下手術、腹水穿刺術
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設 日本婦人科腫瘍学会専門医制度認定研修施設 JCOG(Japan Clinical Oncology Group)参加施設、JGOG(婦人科悪性腫瘍研究機構)登録参加施設

新潟市民病院

指導責任者	倉林 工 【メッセージ】 当院は新潟中央IC近くの鳥屋野潟湖畔に位置し、「重症・専門・救急を中心に、
-------	--

	<p>質の高い医療を行い、患者さんに信頼される、ぬくもりのある医療」をめざしています。当院には初期研修医も含め 180 名余りの医師が在籍していますが、診療科の垣根が低く、医療スタッフ間の連携が非常に密であり、重症患者さんにも迅速かつ高度な診療を行える病院です。また病気や外傷の治療のみでなく、地域医療支援病院として、院内外のコミュニケーション能力を向上させて「患者・家族に寄り添う地域医療」を身につけることも研修の一環としています。</p> <p>周産期においては県指定の総合母子周産期センターとして、重要な位置を占めています。ほぼ全ての胎児疾患、合併症妊娠を管理することが可能であり、かつ産科危機的出血など母体急変症例に速やかな対応体制をとっており、緊急母体搬送が多く、日夜高度な周産期治療を実践しています。婦人科領域では救急外来からの急性腹症などの症例も多く、良性疾患を中心に悪性疾患の診療も行っています。腹腔鏡手術をはじめとした幅広い手術を行なっています。また、豊富な症例の婦人科一般外来も行なっており、女性医師による「女性外来」を担当し、女性ヘルスケア指導医も存在し女性のヘルスケアにも力を入れており、頭で考える産婦人科プライマリ・ケアも研修可能です。</p> <p>上級医の指導のもと、1人の患者さんを入院から退院およびその後の外来フォローし、多くの症例を担当します。週1回の他科医師（新生児科や病理科）を交えた症例検討会があります。毎日忙しいのみで終わらせず、学会・研究会への積極的な発表指導、論文指導をしています。夜間や休日勤務もありますので（夜間勤務翌日午後以降はフリー）、寝食忘れて研修に専念する意思のある研修医にとっては、産婦人科臨床医として生涯にわたって通用する知識・技術・人間関係などを習得可能な研修施設です。</p>
指導医数	8名（日本産科婦人科学会専門医7名）
外来・入院患者数	外来患者 1500名（1ヶ月平均） 入院患者 101名（産科 43、婦人科 58）名（1ヶ月平均）
手術件数	約 55件/月 婦人科：33件、産科：22件
分娩件数	約 52件/月
経験できる疾患	ほとんどすべての産婦人科疾患を経験することができます。 不妊症の専門診療（ART など）は行っていません。
経験できる手技	<ol style="list-style-type: none"> 1) 婦人科内分泌検査・・・基礎体温測定、腔細胞診、頸管粘液検査、ホルモン負荷テスト、各種ホルモン測定、子宮内膜検査 2) 不妊（症）検査・・・基礎体温測定、卵管疎通性検査（通水、通色素、子宮卵管造影）、精液検査、腹腔鏡、子宮内膜検査 3) 癌の検査・・・子宮腔部・頸部・内膜をはじめとする細胞診、コルポスコピー、Schiller テスト、組織診、RI 検査、CT、MRI、腫瘍マーカー測定 4) 絨毛性疾患検査・・・基礎体温測定、ホルモン測定（絨毛性ゴナドトロピンその他）、胸部X線検査、超音波診断、骨盤動脈造影 5) 感染症の検査・・・一般細菌、原虫、真菌検査、免疫学的検査（梅毒血清学的検査、HBs 抗原検査、HCV 抗体検査、HTLV-I 検査、HIV 検査、風疹抗体、トキソプラズマ抗体、淋菌 DNA、クラミジア DNA・抗体検査など）、血液像、生化学的検査 6) 放射線学的検査・・・骨盤計測（入口面撮影、側面撮影）、子宮卵管造影、腎盂撮影、膀胱造影、骨盤血管造影、シンチグラフィ、骨・胸部・腹部単純撮影法、CT、MRI、RI 検査、マンモグラフィ、骨密度検査 7) 内視鏡検査・・・コルポスコピー、腹腔鏡 8) 妊娠の診断・・・免疫学的妊娠反応、超音波検査（ドップラー法、断層法） 9) 生化学的・免疫学的検査 10) 超音波検査・・・ドップラー法：胎児心拍聴取、断層法：骨盤腔内腫瘍（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍その他）、胎嚢、胎児頭殿長、児頭大横径、胞状奇胎、胎盤付着部位、多胎妊娠、胎児発育、胎児形態異常の診断、子宮頸管長、Biophysical Profile Score (BPS)、Amniotic Fluid Index (AFI)、血流ドップラー法

	<p>11) 出生前診断・・・羊水診断、胎児血検査、胎児 well-being 診断、胎児形態異常診断、遺伝カウンセリング</p> <p>12) 分娩監視法・・・陣痛計測、胎児心拍数計測、血液ガス分析</p> <p>13) 新生児採血（さらに12ヶ月以上の研修期間があれば数ヶ月のNICU実習もアレンジ可能）</p> <p>14) ホルモン補充療法やOC/LEP使用患者への適切な説明と検査</p>
経験できる手術	<p>術者として</p> <p>婦人科：腹式単純子宮全摘出術、腔式単純子宮全摘出術、子宮筋腫核出術、子宮腔部円錐切除術、頸管ポリープ切除術、子宮脱手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍摘出術（切除術）、婦人科悪性疾患手術、子宮外妊娠手術、卵管避妊手術、バルトリン腺腺手術（造袋術、摘出術）、子宮鏡下手術、腹腔鏡下手術、胸水穿刺術、腹水穿刺術、皮膚腫瘍生検術</p> <p>産科：流産手術、吸引分娩術、鉗子分娩術、帝王切開術（前置胎盤、常位胎盤早期剥離含む）、外陰・腔血腫除去術、膣会陰裂傷縫合術</p> <p>助手として</p> <p>婦人科：外陰切除術、膀胱・尿管に関する手術、陳旧性会陰裂傷形成術、消化管・肛門に関する手術</p> <p>産科：胎児胸腔穿刺術、胎児腹腔穿刺術、胎児採血</p>
学会認定施設	<p>日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設</p> <p>日本周産期・新生児学会母体胎児専門医研修施設（母体・胎児）</p> <p>日本産科婦人科内視鏡学会技術認定研修施設</p>

村上総合病院

指導責任者	<p>藤巻 尚</p> <p>【初期研修医へのメッセージ】</p> <p>産婦人科は多様で魅力的です。内科と外科の両方のアプローチに救急医療の側面もあります。さらに、保健学や臨床心理学の知識に加え高い倫理観と暖かい人間性が求められています。待っています。外来新患患者を多く経験することができます。</p>
指導医数	2名（日本産科婦人科学会専門医3名）
外来・入院患者数	外来患者 50名/日 入院患者 10名/日
手術件数	約 15件/月
分娩件数	約 25件/月
経験できる疾患	<p>子宮筋腫、子宮腺筋症、子宮内膜症、子宮留膿症、月経困難症、子宮付属器炎、骨盤腹膜炎、卵巣子宮内膜症、骨盤子宮内膜症、子宮脱、不妊症、更年期障害、子宮頸部異形成</p> <p>子宮外妊娠、胎状奇胎、自然流産、切迫流早産、妊娠性糖尿病、常位胎盤早期剥離、骨盤位、既往帝切後分娩</p>
経験できる手技	<p>1) 婦人科内分泌検査・・・基礎体温測定、腔細胞診、頸管粘液検査、ホルモン負荷テスト、各種ホルモン測定、子宮内膜検査</p> <p>2) 不妊（症）検査・・・基礎体温測定、卵管疎通性検査（通気、通水、通色素、子宮卵管造影）、精子頸管粘液適合試験（Huhnerテスト）、精液検査、腹腔鏡、子宮内膜検査</p> <p>3) 癌の検査・・・子宮頸部および内膜細胞診、コルポスコピー、Schillerテスト、組織診、子宮鏡、CT、MRI、腫瘍マーカー測定</p> <p>4) 絨毛性疾患検査・・・基礎体温測定、ホルモン測定（絨毛性ゴナドトロピン他）、胸部X線検査、超音波診断</p> <p>5) 感染症の検査・・・一般細菌、原虫、真菌検査、免疫学的検査（梅毒血清学的</p>

	<p>検査、HBs 抗原検査、HCV 抗体検査、HTLV-I 検査、HIV 検査、風疹抗体、トキソプラズマ抗体、淋菌 DNA、クラミジア DNA・抗体検査など）、血液像、生化学的検査</p> <p>6) 放射線学的検査・・・骨盤計測（入口面撮影、側面撮影）、子宮卵管造影、CT、MRI 検査</p> <p>7) 内視鏡検査・・・コルポスコピー、腹腔鏡</p> <p>8) 妊娠の診断・・・免疫学的妊娠反応、超音波検査（ドプラ法、断層法）</p> <p>9) 生化学的・免疫学的検査</p> <p>10) 超音波検査・・・ドプラ法：胎児心拍聴取、断層法：骨盤腔内腫瘍（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍その他）、胎嚢、胎児頭殿長、児頭大横径、胞状奇胎、胎盤附着部位、多胎妊娠、胎児発育、胎児形態異常の診断、子宮頸管長、Biophysical Profile Score (BPS)、Amniotic Fluid Index (AFI)、血流ドプラ法</p> <p>11) 分娩監視法・・・陣痛計測、胎児心拍数計測、血液ガス分析</p>
経験できる手術	<p>婦人科：腹式単純子宮全摘出術、子宮筋腫核出術、子宮腔部円錐切除術、頸管ポリープ切除術、子宮脱手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍核出術（切除術）、卵管避妊手術、バルトリン腺手術、腹腔鏡下卵巣腫瘍核出術</p> <p>産科：帝王切開術、鉗子遂娩術、吸引遂娩術、シロッカー頸管縫縮術、子宮内容除去術</p>
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設

新潟県立新発田病院

指導責任者	<p>浅野堅策</p> <p>【初期研修医へのメッセージ】</p> <p>新潟県北地域の中核病院として地域周産母子医療センターに認定されており。産科、婦人科の豊富な症例を経験できます。腹腔鏡手術を含め手術症例も豊富で、上級医とともに積極的にそれらの診療に参加できます。</p>
指導医数	3名（日本産科婦人科学会専門医2名）
外来・入院患者数	外来患者 45 件/日（産科 15、婦人科 30）名 入院患者 15 件/日
手術件数	約 25 件/月（産科 10 件、婦人科 15 件）
分娩件数	約 300 件/年
経験できる手技	<p>産科：妊娠診断、妊婦健診、切迫早産等妊娠経過異常に対する管理、分娩管理、分娩処置（正常・吸引・帝王切開分娩、会陰切開縫合等）、新生児の診察、産褥管理</p> <p>婦人科：一般外来診療・・・内診・直腸診・穿刺診・検体検査・内視鏡検査・画像診断等による各種疾患の診断、投薬・小手術等による治療／入院治療・・・手術患者の手術及び周術期管理、感染性疾患や悪性腫瘍患者の全身管理</p> <p>生殖医療：・・・基礎体温表の診断・各種ホルモン検査・卵管検査等による診断</p>
経験できる手術	<p>産科：帝王切開術、子宮頸管縫縮術等</p> <p>婦人科：腹式単純子宮全摘出術、腔式単純子宮全摘出術、準広汎（拡大単純）子宮全摘出術、後腹膜リンパ節郭清、子宮筋腫核出術、子宮腔部円錐切除術、子宮脱手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍核出術（切除術）、卵巣癌根治手術、腹腔鏡下手術（全腹腔鏡下子宮全摘術を含む）、子宮鏡下手術</p>
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設

新潟県済生会三条病院

指導責任者	夏目学浩 【初期研修医へのメッセージ】 一般市中病院として産科、婦人科の豊富な症例を経験できます。県央地域では唯一の分娩と婦人科手術の両方を行なっている病院で、切迫早産や双胎妊娠、妊娠高血圧症候群などのハイリスク症例の管理も行なっています。良性疾患に対する内視鏡手術も行っており、研修が可能です。
指導医数	1名（日本産科婦人科学会専門医1名）
外来・入院患者数	外来患者 約7000名/年 入院患者 約650名/年
手術件数	約260件/年
分娩件数	約25件/月
経験できる疾患	妊娠関連疾患、子宮筋腫や卵巣嚢腫などの婦人科良性腫瘍、子宮頸部異形成上皮や上皮内癌、異所性妊娠、膣炎、ホルモン異常、不妊症、更年期症候群、性器脱など、一般産婦人科臨床でほとんどのものを経験することができます。ただしARTなど不妊症の専門診療や、進行した婦人科悪性腫瘍の治療は行なっておりません。
経験できる手技	産科 ：妊娠診断、妊婦健診、切迫早産等妊娠経過異常に対する管理、合併症妊娠の管理、分娩管理、分娩処置（正常・吸引・鉗子・骨盤位・帝王切開分娩、会陰切開縫合等）、新生児の診察、産褥管理 婦人科 ：一般外来診療・・・内診・穿刺診・検体検査・内視鏡検査・画像診断等による各種疾患の診断、投薬・小手術等による治療／入院治療・・・手術患者の手術及び周術期管理、感染性疾患や悪性腫瘍患者の全身管理
経験できる手術	産科 ：帝王切開術、頸管縫縮術、流産手術、人工妊娠中絶術、卵管避妊手術 婦人科 ：単純子宮全摘出術、子宮筋腫核出術、子宮腺筋症核出術、子宮腔部円錐切除術、子宮脱手術、附属器摘出術、卵巣腫瘍摘出術、外陰小手術、子宮鏡下手術、腹腔鏡下手術など
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設

長岡赤十字病院

指導責任者	安達茂實 【初期研修医へのメッセージ】 当科は、新潟県中越地区の中核病院として、産婦人科全般に診療を行っています。周産期領域では、総合周産期センターに指定されており、他専門科と連携し総合的にハイリスク妊娠の診療を行っています。婦人科領域では、がん拠点病院として集学的に悪性腫瘍の治療を行っています。腹腔鏡下手術の手術件数も県内屈指です。当科での研修で、日常の診療、プライマリーケアから高次診療まで、多くの症例を経験することができます。
指導医数	5名（日本産科婦人科学会専門医5名、日本周産期・新生児医学会母体・胎児専門医2名）
外来・入院患者数	外来患者 産科 700名、婦人科 1500名（1ヶ月平均） 入院患者 産科 90名、婦人科 70名（1ヶ月平均）
手術件数	約 50件/月（産科20件、婦人科30件）
分娩件数	約 60件/月
経験できる疾患	ほとんどすべての産婦人科疾患を経験することができます。生殖内分泌（不妊症）の診療は行っていません。
経験できる手技	1) 婦人科内分泌検査・・・基礎体温測定、腔細胞診、ホルモン負荷テスト、各種ホルモン測定、子宮内膜検査 2) 癌の検査・・・子宮腔部・頸部・内膜をはじめとする細胞診、コルポスコピー、Schillerテスト、組織診、RI検査、CT、MRI、腫瘍マーカー測定 3) 絨毛性疾患検査・・・基礎体温測定、ホルモン測定（絨毛性ゴナドトロピンその他）、胸部X線検査、超音波診断、骨盤動脈造影 4) 感染症の検査・・・一般細菌、原虫、真菌検査、免疫学的検査（梅毒血清学的検査、HBs抗原検査、HCV抗体検査、HTLV-I検査、HIV検査、風疹抗体、トキソプラズマ抗体、淋菌DNA、クラミジアDNA・抗体検査など）、血液像、生化学的検査 5) 放射線学的検査・・・骨盤計測（入口面撮影、側面撮影）、子宮卵管造影、腎盂撮影、膀胱造影、骨盤血管造影、シンテグラフィー、骨・トルコ鞍・胸部・腹部単純撮影法、CT、MRI、RI検査 6) 内視鏡検査・・・コルポスコピー、腹腔鏡 7) 妊娠の診断・・・免疫学的妊娠反応、超音波検査（ドップラー法、断層法） 8) 生化学的・免疫学的検査 9) 超音波検査・・・ドップラー法：胎児心拍聴取、断層法：骨盤腔内腫瘍（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍その他）、胎嚢、胎児頭殿長、児頭大横径、胞状奇胎、胎盤附着部位、多胎妊娠、胎児発育、胎児形態異常の診断、子宮頸管長、Biophysical Profile Score (BPS)、Amniotic Fluid Index (AFI)、血流ドップラー法 10) 出生前診断・・・羊水診断、胎児血検査、胎児 well-being 診断、胎児形態異常診断、遺伝カウンセリング 11) 分娩監視法・・・陣痛計測、胎児心拍数計測、血液ガス分析
経験できる手術	産科：帝王切開術、吸引分娩術、鉗子分娩術、頸管縫縮術、流産手術、人工妊娠中絶術、卵管避妊手術 婦人科：腹式単純子宮全摘出術、腔式単純子宮全摘出術、準広汎子宮全摘出術、広汎子宮全摘出術、後腹膜・傍大動脈リンパ節郭清、子宮筋腫核出術、子宮腔部円錐切除術、子宮脱手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍核出術、卵巣癌根治手術、腹腔鏡下手術（子宮全摘術、早期子宮体がん根治術、子宮筋腫核出術、卵巣腫瘍摘出術・核出術、子宮外妊娠手術）、バルトリン腺手術（造袋術、摘出術）、子宮外妊娠手術、腹水穿刺術
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設 日本周産期・新生児医学会母体・胎児専門医研修施設

新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央総合病院

指導責任者	加勢宏明 【初期研修医へのメッセージ】 地域の中核病院として、生殖医療を除く産婦人科全般について学ぶことができます。分娩件数は年間1,000件を超え、豊富な症例の中で数多くの以上症例も学べます。また悪性腫瘍症例の経験や内視鏡手術の研修もおこなえます。
指導医数	4名（日本産科婦人科学会専門医4名、日本臨床細胞学会細胞診専門医1名、日本周産期・新生児学会母体胎児専門医1名）
外来・入院患者数	外来患者 1800（産科1000、婦人科1800）名（1ヶ月平均） 入院患者 200 （産科 60、婦人科 100）名（1ヶ月平均）
手術件数	約 55件/月（産科15件、婦人科40件）
分娩件数	約 90件/月
経験できる疾患	生殖医療を除く産婦人科ほとんどの疾患
経験できる手技	産科 ：妊娠診断、妊婦健診、切迫早産等妊娠経過異常に対する管理、分娩管理、分娩処置（正常・吸引・鉗子・帝王切開分娩、会陰切開縫合等）、新生児の診察、産褥管理 婦人科 ：一般外来診療・・・内診・直腸診・穿刺診・検体検査・内視鏡検査・画像診断等による各種疾患の診断、投薬・小手術等による治療／入院治療・・・手術患者の手術及び周術期管理、感染性疾患や悪性腫瘍患者の全身管理
経験できる手術	産科 ：帝王切開術、人工妊娠中絶術、卵管避妊手術 婦人科 ：腹式単純子宮全摘出術、腔式単純子宮全摘出術、準広汎（拡大単純）子宮全摘出術、広汎子宮全摘出術、後腹膜リンパ節郭清、子宮筋腫核出術、子宮腔部円錐切除術、子宮脱手術（メッシュを用いた手術も含む）、尿失禁手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍核出術（切除術）、卵巣癌根治手術、Bartholin腺手術（造袋術）、子宮鏡下手術、腹腔鏡下手術、腹水穿刺術、皮膚腫瘍生検術
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設 日本周産期・新生児学会母体胎児専門医研修施設

立川総合病院

指導責任者	佐藤孝明 【初期研修医へのメッセージ】 一般病院として産科、婦人科の豊富な症例を経験できます。不妊治療においては新潟県下で総合病院として最も多数の症例を扱っており、希望に応じて採卵・胚移植等を行うことも可能です。また胚培養士が3名おり、胚培養、顕微授精等の操作を学ぶこともできます。
指導医数	3名（日本産科婦人科学会指導医1名、日本産科婦人科学会専門医2名）
外来・入院患者数	外来患者一日平均 90名（産科・婦人科・不妊外来3診制） 入院患者一日平均 25名
手術件数	約 30件/月（産科12件、婦人科18件）
分娩件数	約 45件/月
経験できる疾患	進行悪性腫瘍を除く婦人科、NICU管理が必要な場合を除く産科、生殖医療の部門におけるほとんどの疾患
経験できる手技	婦人科 ：一般外来診療・・・内診・直腸診・穿刺診・検体検査・内視鏡検査・画像診断等による各種疾患の診断、投薬・小手術等による治療／入院治療・・・手術患者の手術及び周術期管理、感染性疾患や悪性腫瘍患者の全身管理

	<p>産科：妊娠診断、妊婦健診、切迫早産等妊娠経過異常に対する管理、分娩管理、分娩処置（正常・吸引・鉗子・骨盤位・帝王切開分娩、会陰切開縫合等）、新生児の診察、産褥管理</p> <p>生殖医療：不妊外来・・・基礎体温表の診断・各種ホルモン検査・精液検査・卵管検査等による診断、治療方針の立案と排卵誘発や人工授精・体外受精・顕微授精等実際の治療／入院治療・・・体外受精・顕微授精における採卵、精液処理、胚培養、胚移植、胚凍結保存・融解等</p>
経験できる手術	<p>婦人科：腹式単純子宮全摘出術、腔式単純子宮全摘出術、子宮筋腫核出術、子宮腔部円錐切除術、頸管ポリープ切除術、子宮脱手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍核出術（切除術）、子宮外妊娠手術、卵管避妊手術、Bartholin腺手術（造袋術、摘出術）、子宮鏡下手術、腹腔鏡下手術、腹水穿刺術</p> <p>産科：流産手術、吸引分娩術、鉗子分娩術、帝王切開術、外陰・腔血腫除去術、腔会陰裂傷縫合術</p> <p>生殖医療：採卵、胚移植</p>
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設

新潟県立中央病院

指導責任者	<p>大野 正文</p> <p>【産科婦人科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は上越地域の基幹病院として、がん診療連携拠点病、地域母子周産期センターに指定されています。婦人科領域の良性および悪性疾患の診断から治療、さらに緩和・終末期医療を習得することが可能です。</p> <p>また、NICUが整備されていることから、ハイリスク妊婦の周産期管理も習得することが可能です。</p> <p>婦人科カンファレンス、ペリネイタルカンファレンス、カンサーボードに参加して情報を共有することが可能です。</p>
指導医数	4名（日本産科婦人科学会専門医4名、日本婦人科腫瘍専門医1名、細胞診専門医1名）
外来・入院患者数	外来患者 1400（産科 400、婦人科 1000）名（1ヶ月平均） 入院患者 160（産科 60、婦人科 100）名（1ヶ月平均）
手術件数	約 50件/月（産科 10件、婦人科 40件）
分娩件数	約 40件/月
経験できる疾患	ほとんどすべての産科および婦人科疾患
経験できる手技	<p>産科：妊娠診断、妊婦健診、切迫早産等妊娠経過異常に対する管理、分娩管理、分娩処置（正常・吸引・鉗子・帝王切開分娩、会陰切開縫合等）、双胎症例が多い、新生児の診察、産褥管理</p> <p>婦人科：一般外来診療・・・内診・直腸診・穿刺診・検体検査・内視鏡検査・画像診断等による各種疾患の診断、投薬・小手術等による治療／入院治療・・・手術患者の手術及び周術期管理、感染性疾患や悪性腫瘍患者の全身管理</p> <p>生殖医療は行っていない</p>
経験できる手術	<p>産科：帝王切開術、人工妊娠中絶術、卵管避妊手術、子宮頸管縫縮術</p> <p>婦人科：腹式単純子宮全摘出術、腔式単純子宮全摘出術、準広汎（拡大単純）子宮全摘出術、広汎子宮全摘出術、後腹膜リンパ節郭清、子宮筋腫核出術、子宮腺筋症核出術、子宮頸部切除術、子宮脱手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍核出術（切除術）、卵巣癌根治手術、外陰癌 Bartholin腺手術（造袋術、摘出術）、腹水穿刺術、皮膚腫瘍生検術</p>
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設

設	
---	--

上越総合病院

指導責任者	相田 浩 【初期研修医へのメッセージ】 一般市中病院として産科、婦人科の豊富な症例を経験できます。特に分娩数は 500～600 件／年で推移しており、さらに増加の傾向にあります。また手術では内視鏡手術なども積極的に取り入れています。また最先端レベルの不妊治療を誇っており、上級医とともに積極的にそれらの診療に参加できます。
指導医数	2 名（日本産科婦人科学会専門医 2 名）
外来・入院患者数	外来患者 1600（産科 300、婦人科 1300）名（1 ヶ月平均） 入院患者 600（産科 400、婦人科 200）名（1 ヶ月平均）
手術件数	約 25 件/月（産科 10 件、婦人科 15 件）
分娩件数	約 40-50 件/月
経験できる疾患	一部の診療（34 週未満の早産など）を除いて産科、婦人科、生殖医療の各部門におけるほとんどの疾患
経験できる手技	産科 ：妊娠診断、妊婦健診、切迫早産等妊娠経過異常に対する管理、分娩管理、分娩処置（正常・吸引・鉗子・骨盤位・帝王切開分娩、会陰切開縫合等）、新生児の診察、産褥管理 婦人科 ：一般外来診療・・・内診・直腸診・穿刺診・検体検査・内視鏡検査・画像診断等による各種疾患の診断、投薬・小手術等による治療／入院治療・・・手術患者の手術及び周術期管理、感染性疾患や悪性腫瘍患者の全身管理 生殖医療 ：不妊外来・・・基礎体温表の診断・各種ホルモン検査・精液検査・卵管検査等による診断、治療方針の立案と排卵誘発や人工授精・体外受精・顕微授精等実際の治療／入院治療・・・体外受精・顕微授精における採卵、精液処理、胚培養、胚移植、胚凍結保存・融解等
経験できる手術	産科 ：帝王切開術、人工妊娠中絶術、卵管避妊手術 婦人科 ：腹式単純子宮全摘出術、腔式単純子宮全摘出術、子宮筋腫核出術、子宮腺筋症核出術、子宮腔部円錐切除術、子宮脱手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍核出術（切除術）、Bartholin 腺手術（造袋術、摘出術）、子宮鏡下手術、腹腔鏡下手術、
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設

鶴岡市立荘内病院

指導責任者	五十嵐 裕一 【初期研修医へのメッセージ】 山形県庄内地方南域の人口約 17 万人の医療圏における唯一の基幹病院です。地域周産期母子医療センターであり、多くの母体救急搬送例の対処やハイリスク妊娠・分娩管理を経験できます。またがん診療連携指定病院であることから婦人科悪性腫瘍症例も他施設から紹介され、悪性腫瘍症例の手術・化学療法・緩和ケアのスキルも習得できます。院内では新生児蘇生講習会、緩和ケア研修会等が開催されています。産婦人科専門医を取得した後は、当院でのさらなる研修で母体胎児専門医、がん治療認定医を取得することができます。
指導医数	1 名（日本産科婦人科学会専門医 2 名、 日本周産期・新生児学会母体胎児専門医 1 名 日本がん治療認定医機構指導責任者 1 名）

外来・入院患者数	外来患者 1000 (産科 250、婦人科 750) 名 (1ヶ月平均) 延べ入院患者 700 (産科 300、婦人科 400) 名 (1ヶ月平均)
手術件数	約 22 件/月 (産科 9 件、婦人科 13 件)
分娩件数	約 20 件/月
経験できる疾患	一部の診療 (体外授精・顕微授精などの ART) を除いて、周産期領域、婦人科腫瘍領域、生殖内分泌領域、女性のヘルスケア領域の各部門におけるほとんどの疾患
経験できる手技	産科 ：妊娠診断、妊婦健診、切迫早産・妊娠高血圧症候群等妊娠経過異常に対する管理、分娩管理、分娩処置 (正常・吸引・鉗子・骨盤位・帝王切開分娩、会陰切開縫合等)、新生児の診察、産褥管理 特に母体救急搬送例の処置・対応及びハイリスク妊娠・分娩管理 婦人科 ：一般外来診療・・・内診・直腸診・穿刺診・検体検査・内視鏡検査・画像診断等による各種疾患の診断、投薬・小手術等による治療、外来化学療法室での化学療法 入院診療・・・手術患者の手術及び周術期管理、感染性疾患や悪性腫瘍患者の全身管理 化学療法患者の管理 生殖医療 ：不妊外来・・・基礎体温表の診断・各種ホルモン検査・精液検査・卵管検査等による診断、治療方針の立案と排卵誘発や人工授精
経験できる手術	産科 ：帝王切開術、頸管縫縮術、流産手術、卵管避妊手術 婦人科 ：腹式単純子宮全摘術、腔式単純子宮全摘術、広汎子宮全摘術、後腹膜リンパ節郭清、子宮筋腫核出術、子宮腺筋症核出術、子宮腔部円錐切除術、子宮脱手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍切除術、卵巣癌根治手術、Bartholin 腺手術 (造袋術、摘出術)、子宮鏡下手術、腹腔鏡下手術 生殖医療 ： 腹腔鏡検査、子宮奇形形成術
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設 日本周産期・新生児学会母体胎児専門医研修施設 (指定施設) 日本がん治療認定医機構認定研修施設

富山赤十字病院

指導責任者	桑間直志 【初期研修医へのメッセージ】 産婦人科全般の診療技術の研修を行い、日本産科婦人科学会専門医資格取得に必要な素養の習得を目指します。産科領域では、周産期 2 次医療機関として、正常妊娠の他に、ハイリスク妊娠の診療にあたり、外来診療技術を、分娩では、正常分娩以外に急速遂娩 (吸引分娩、鉗子分娩、帝王切開) の技術を、母体保護法臨床研修施設として人工妊娠中絶術や避妊指導の方法を、「赤ちゃんにやさしい病院」として母乳育児支援の方法を、新生児蘇生法の技術を、各々習得します。不妊治療領域では、生殖補助医療：体外受精胚移植、顕微授精、凍結胚移植の技術を習得します。婦人科領域では、主に手術：良性疾患開腹手術、内視鏡下手術、悪性腫瘍手術の技術習得を、助手からはじめ、執刀医として多数の症例を経験します。悪性腫瘍の治療としては化学療法、放射線療法の治療の立案の他、緩和医療までの集学的治療の方法を習得します。他、更年期診療、思春期診療を含めた女性医学一般の技術習得
-------	---

	を目指します。
指導医数	1名（日本産科婦人科学会専門医4名、女性ヘルスケア暫定指導医1名）
外来・入院患者数	外来患者 1500（産科650、婦人科850）名（1ヶ月平均） 入院患者 100（産科 50、婦人科 50）名（1ヶ月平均）
手術件数	約 35件/月（産科15件、婦人科20件）
分娩件数	約 50件/月
経験できる疾患	一部の診療（NICUや放射線治療（RALS）設備を必要とする診療）を除いて産科、婦人科、生殖医療の各部門におけるほとんどの疾患
経験できる手技	<p>産科：妊娠診断、妊婦健診、切迫流産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、合併症妊娠、多胎妊娠等妊娠経過異常に対する管理、分娩管理、分娩処置（正常・吸引・鉗子・骨盤位・帝王切開分娩、会陰切開縫合、TOLAC等）、新生児の診察、新生児蘇生術、産褥管理、母乳育児支援</p> <p>婦人科：一般外来診療・・・内診・直腸診・穿刺診・検体検査・内視鏡検査・画像診断等による各種疾患の診断、投薬・小手術等による治療、外来化学療法／入院治療・・・手術患者の手術及び周術期管理、感染性疾患や悪性腫瘍患者の全身管理、緩和医療等</p> <p>生殖医療：不妊外来・・・基礎体温表の診断・各種ホルモン検査・精液検査・卵管検査等による診断、治療方針の立案と排卵誘発や人工授精・体外受精・顕微授精等実際の治療／入院治療・・・体外受精・顕微授精における採卵、精液処理、胚培養、胚移植、胚凍結保存・融解等</p>
経験できる手術	<p>産科：帝王切開術、流産手術、人工妊娠中絶術、子宮頸管縫縮術、卵管避妊手術、子宮外妊娠手術等</p> <p>婦人科：腹式単純子宮全摘出術、腔式単純子宮全摘出術、準広汎（拡大単純）子宮全摘出術、広汎子宮全摘出術、後腹膜リンパ節郭清、子宮筋腫核出術、子宮腺筋症核出術、子宮腔部円錐切除術、子宮脱手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍摘出術、卵巣癌根治手術、外陰癌手術、Bartholin腺手術（造袋術、摘出術）、子宮鏡下手術、腹腔鏡下手術、人工造腔術、腹水穿刺術等</p> <p>生殖医療：腹腔鏡検査等</p>
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設

埼玉県済生会川口総合病院

指導責任者	<p>東野昌彦</p> <p>【メッセージ】</p> <p>当院は埼玉県南部に位置し、周産期においては県指定の地域母子周産期センター（NICU6床、GCU6床）であり周産期領域の地域の中核病院です。一部の先天性小児外科疾患を除いて、ほぼ全ての胎児疾患、合併症妊娠を管理することが可能であり、日夜高度な周産期治療を実践しています。婦人科領域では良性疾病を中心に診療を行っています。腹腔鏡手術、子宮鏡手術をはじめとした幅広い手術を行なっております。また、地域中核病院救急患者を含めたプライマリーケア研修が幅広く可能です。産婦人科専攻医は原則1学年1名としており多くの症例に直接主治医として携われ多くの経験を積むことが可能です。</p>
指導医数	6名（日本産科婦人科学会専門医6名、同指導医2名、日本臨床細胞学会細胞診専門医2名、臨床遺伝専門医1名、日本女性医学会暫定指導医1名）

外来・入院患者数	外来患者 80名/日 入院患者 35名/日
手術件数	約 450件/年 婦人科：200件、産科：250件
分娩件数	約 80件/月 母体搬送受け入れ実績 約 50件/年
経験できる疾患	稀な疾患、非常に進行した癌腫を除いて、ほとんどすべての産婦人科疾患を経験することができます。不妊症の専門診療は行っておりません。
経験できる手技	<ol style="list-style-type: none"> 1) 婦人科内分泌検査・・・基礎体温測定、腔細胞診、頸管粘液検査、ホルモン負荷テスト、各種ホルモン測定、子宮内膜検査 2) 不妊（症）検査・・・基礎体温測定、卵管疎通性検査（通水、通色素、子宮卵管造影）、精子頸管粘液適合試験（Huhner テスト）、精液検査、腹腔鏡、子宮内膜検査 3) 癌の検査・・・子宮腔部・頸部・内膜をはじめとする細胞診、コルポスコピー、Schiller テスト、組織診、RI 検査、CT、MRI、腫瘍マーカー測定 4) 絨毛性疾患検査・・・基礎体温測定、ホルモン測定（絨毛性ゴナドトロピンその他）、胸部 X 線検査、超音波診断、骨盤動脈造影 5) 感染症の検査・・・一般細菌、原虫、真菌検査、免疫学的検査（梅毒血清学的検査、HBs 抗原検査、HCV 抗体検査、HTLV-I 検査、HIV 検査、風疹抗体、トキソプラズマ抗体、淋菌 DNA、クラミジア DNA・抗体検査など）、血液像、生化学的検査 6) 放射線学的検査・・・骨盤計測（入口面撮影、側面撮影）、子宮卵管造影、腎盂撮影、膀胱造影、骨盤血管造影、シンチグラフィ、骨・トルコ鞍・胸部・腹部単純撮影法、CT、MRI、RI 検査 7) 内視鏡検査・・・コルポスコピー、腹腔鏡 8) 妊娠の診断・・・免疫学的妊娠反応、超音波検査（ドップラー法、断層法） 9) 生化学的・免疫学的検査 10) 超音波検査・・・ドップラー法：胎児心拍聴取、断層法：骨盤腔内腫瘍（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍その他）、胎嚢、胎児頭殿長、児頭大横径、胞状奇胎、胎盤付着部位、多胎妊娠、胎児発育、胎児形態異常の診断、子宮頸管長、Biophysical Profile Score (BPS)、Amniotic Fluid Index (AFI)、血流ドップラー法 11) 出生前診断・・・羊水診断、胎児血検査、胎児 well-being 診断、胎児形態異常診断、遺伝カウンセリング 12) 分娩監視法・・・陣痛計測、胎児心拍数計測、血液ガス分析
経験できる手術	<p>術者として</p> <p>婦人科：腹式単純子宮全摘出術、後腹膜リンパ節廓清、腔式単純子宮全摘出術、子宮筋腫核出術、子宮腔部円錐切除術、頸管ポリープ切除術、子宮脱手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍核出術（切除術）、異所性妊娠手術、卵管避妊手術、Bartholin 腺手術（造袋術、摘出術）、腹腔鏡下手術、子宮鏡下手術、胸水穿刺術、腹水穿刺術、皮膚腫瘍生検術</p> <p>産科：流産手術、吸引分娩術、鉗子分娩術、帝王切開術、骨盤医牽出術、外陰・腔血腫除去術、腔会陰裂傷縫合術、羊水穿刺術</p>
学会認定施設	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設

聖隷浜松病院

指導責任者	<p>村越 毅</p> <p>【メッセージ】</p> <p>総合周産期母子医療センターとして、年間約 1,600 件の分娩と約 500 例の帝王切開を行っています。また、総合病院に併設された総合周産期母子医療センターとし</p>
-------	--

	<p>て、母体救急や各科合併症に対応可能であるのみならず、小児外科、小児心臓外科、小児循環器科など小児病院的な役割も担っています。また、胎児治療も行っています。</p> <p>婦人科では、地域がん診療拠点病院として、全ての婦人科癌の治療を行っています。婦人科の手術は浸潤癌が年間 90 件、腹腔鏡下手術が 360 件、骨盤臓器脱の手術が 100 件を含めて年間約 950 件です。</p> <p>生殖不妊領域では、一般不妊治療から年間約 100 周期の ART に至る高度生殖医療を行っています。</p> <p>希望により NICU や産科麻酔（無痛分娩を含む）のトレーニングも可能です。産婦人科専門研修医にとっては産婦人科のすべてを学べる非常にバランスのとれた診療内容になっています。</p>
指導医数	12 名（日本産科婦人科学会指導医 8 名、日本産科婦人科学会専門医 12 名、周産期（母体胎児）指導医 3 名、専門医 5 名、婦人科腫瘍専門医 2 名、内視鏡技術認定医 1 名、超音波指導医 2 名、超音波専門医 4 名、臨床遺伝専門医 3 名）
外来・入院患者数	外来患者 180 名（1 日平均：産科 73 名、婦人科 73 名、不妊内分泌科 23 名） 入院患者 90 名（1 日平均：産科 51 名、婦人科 39 名）
手術件数	約 1500 件/年（この内、帝王切開 500 件、浸潤癌 90 件、腹腔鏡 360 件、胎児治療 20 件）
分娩件数	約 1600 件/年
経験できる疾患	<p>産科：ほぼ全ての疾患（胎児診断、胎児治療、正常分娩、異常分娩、合併症妊娠、産科救急疾患など）</p> <p>婦人科：極めて特殊な症例を除きほぼ全ての疾患</p> <p>不妊生殖医療：一般不妊および高度不妊治療（体外受精、顕微授精、凍結胚移植など）</p> <p>女性医学：思春期、更年期、骨盤臓器脱など</p>
経験できる手技	<ol style="list-style-type: none"> 1) 婦人科内分泌検査・・・基礎体温測定、腔細胞診、頸管粘液検査、ホルモン負荷テスト、各種ホルモン測定、子宮内膜検査 2) 不妊（症）検査・・・基礎体温測定、卵管疎通性検査（通水、通色素、子宮卵管造影）、精子頸管粘液適合試験（Huhner テスト）、精液検査、腹腔鏡、子宮内膜検査 3) 癌の検査・・・子宮腔部・頸部・内膜をはじめとする細胞診、コルポスコピー、組織診、RI 検査、CT、MRI、PET、腫瘍マーカー測定 4) 絨毛性疾患検査・・・基礎体温測定、ホルモン測定（絨毛性ゴナドトロピンその他）、胸部 X 線検査、超音波診断、骨盤動脈造影 5) 感染症の検査・・・一般細菌、原虫、真菌検査、免疫学的検査（梅毒血清学的検査、HBs 抗原検査、HCV 抗体検査、HTLV-I 検査、HIV 検査、風疹抗体、トキソプラズマ抗体、淋菌 DNA、クラミジア DNA・抗体検査など）、血液像、生化学的検査 6) 放射線学的検査・・・骨盤計測（入口面撮影、側面撮影）、子宮卵管造影、腎盂撮影、膀胱造影、骨盤血管造影、シンチグラフィ、骨・トルコ鞍・胸部・腹部単純撮影法、CT、MRI、PET、RI 検査 7) 内視鏡検査・・・コルポスコピー、子宮鏡、腹腔鏡 8) 妊娠の診断・・・免疫学的妊娠反応、超音波検査（ドップラー法、断層法） 9) 生化学的・免疫学的検査 10) 超音波検査・・・ドップラー法：胎児心拍聴取、断層法：骨盤腔内腫瘍（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍その他）、胎嚢、胎児頭殿長、児頭大横径、胎状奇胎、胎盤附着部位、多胎妊娠、胎児発育、胎児形態異常の診断、子宮頸管長、Biophysical Profile Score (BPS)、Amniotic Fluid Index (AFI)、血流ドップラー法 11) 出生前診断・・・羊水診断、胎児血検査、胎児 well-being 診断、胎児形態異常診断 12) 分娩監視法・・・陣痛計測、胎児心拍数計測、血液ガス分析 13) 胎児治療・・・胎児輸血、双胎間輸血症候群に対するレーザー治療、無心体双

	胎に対する血流遮断、胎児胸水に対する胸腔羊水腔シャント術など
経験できる手術	<p>【術者として】</p> <p>婦人科：腹式単純子宮全摘出術、腔式単純子宮全摘出術、子宮筋腫核出術、子宮腔部円錐切除術、頸管ポリープ切除術、子宮脱手術、付属器摘出術、卵巣腫瘍核出術（切除術）、外陰切除術、子宮鏡下手術、異所性妊娠手術、卵管避妊手術、Bartholin腺手術（造袋術、摘出術）、陳旧性会陰裂傷形成術、腹腔鏡下腹腔内観察、胸水穿刺術、腹水穿刺術、皮膚腫瘍生検術、腹腔鏡下手術</p> <p>産科：流産手術、吸引分娩術、鉗子分娩術、帝王切開術、外陰・腔血腫除去術、腔会陰裂傷縫合術</p> <p>生殖医療：人工授精</p> <p>【助手として】</p> <p>婦人科：高度な腹腔鏡下手術、膀胱・尿管に関する手術、消化管・肛門に関する手術</p> <p>産科：前置胎盤手術、癒着胎盤手術（子宮摘出含む）、胎盤早期剥離の帝王切開、早産児の帝王切開、胎児治療</p> <p>生殖医療：体外受精・胚移植</p>
学会認定施設	<p>日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設</p> <p>日本周産期新生児医学会研修施設</p> <p>日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設</p> <p>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設</p> <p>など</p>

厚生連佐渡総合病院

指導責任者	<p>石田 道雄</p> <p>【初期研修医へのメッセージ】</p> <p>佐渡は人口約 57000 の離島で、出産も可能な医療施設は当院しかありません（産婦人科診療所もありません）。このため、当院では、島内で発生した産婦人科患者のほぼ全員に対応することが求められます。勿論、島外の高次施設に紹介または緊急搬送しなくてはならないケースも多くあり、決してのどかな田舎の病院ではありません。しかし、それだけに、基幹施設で身につくものとは異なった種類の力をつけることが可能な病院だと考えております。地域医療の現状を体感し、現場で地域医療の実際を研修することが可能です。</p>
指導医数	3 名（日本産科婦人科学会専門医 2 名）
外来・入院患者数	<p>外来 1 日あたり 65 人前後（全体では 1100 人前後）</p> <p>入院 1 日あたり 15 人前後（全体では 330 人前後）</p>
手術件数	<p>年間 175 件前後</p> <p>（うち帝王切開が 60-70 件、人工妊娠中絶が 25 件前後）</p>
分娩件数	ひと月あたり 30-40 件
経験できる疾患	すべての産婦人科疾患

	ただし、婦人科癌の初回手術、ICU や NICU 管理が必要なケース、体外受精が必要な不妊症患者などは島外の高次施設に依頼しているのが現状。
経験できる手技	産婦人科一般処置、遺伝カウンセリング
経験できる手術	産科：帝王切開術、シロツカー手術、流産および人工妊娠中絶術、卵管避妊手術 婦人科：腹式および腔式単純子宮全摘術、開腹子宮筋腫核出術、開腹子宮付属器手術、マンチェスター手術、腹腔鏡下子宮付属器手術など